

「ホクホク焼き芋に、ホクホク笑顔」

全然冬らしくないなど不満をこぼしていたら、突如としてやってきました冬将軍。お年寄りに限らず職員たちも寒いのは苦手な者も多く、台湾生まれの台湾育ちのお年寄りを始め重ね着で少し太った方もチラホラ。

そこで満を持しての薪ストーブの登場です。この広いリビングを暖めるには効率的とは言えませんが、不思議なものでパチパチと燃える火を見ているだけで暖かくなります。皆さん頬をピンクに染めながら「温いねえ」と幸せそうです。しかしこれ、火を熾すのがとても大変で、新聞紙や小枝をこれでもかというほどに灰にしてもなかなか薪に火が移ってくれません。皆さんそんな様子を見て「昔はおくどさんでご飯を炊きよったんよ」「うちは風呂も炊きよった」「火が消えたらいかんけん、必死やった」と苦労話をされていました。いろいろとアドバイスを受け悪戦苦闘しながらもようやく薪が燃えたところで焼き芋作り開始。さつまいもを新聞紙で包んだあと水で濡らし、更にそれをアルミホイルで覆い薪の中にポイッ。お芋が焼けるまでジグソーパズルをしたりお喋りに花を咲かせたりテーブルや家具等を拭いて回ったり。皆さんそれぞれ思い思いに過ごされ、

お芋の存在を忘れたところに焼きあがりました。次々と取り出され食欲をくすぐる匂いに大歓声。あっという間にお腹に納まり少々食べ足りない様子の皆さん。次はお芋をたくさん買ってきましょうね。それまで上手に火が熾せるよう頑張りたいと思います。

